

令和4年度 文部科学省・熊本県教育委員会指定
令和4年度 宇城市教育委員会指定

人権教育研究指定校

研 究 主 題

『ともに伸び合い、笑顔があふれる児童の育成』
～人権が尊重される教育活動を通して～



〈学校スローガン〉
瞳キラキラ 心ポカポカ 小川小

〒869-0622 熊本県宇城市小川町西北小川1番地

【TEL】 0964-43-0041 【FAX】 0964-43-3905

【URL】 <https://es.higo.ed.jp/ogawa/>

【E-mail】 ogawasyo-d@tsubaki.higo.ed.jp

熊本県宇城市立小川小学校



学校教育目標

自ら学び、高め合い、笑顔あふれる小川っ子の育成

小川小学校人権教育の目標

- 自分の人権を守り、他者の人権を守る言動がとれる児童の育成
- 人権に関する知識理解と人権感覚を高める児童の育成

【研究主題】

ともに伸び合い、笑顔があふれる児童の育成
～人権が尊重される教育活動を通して～

「笑顔」とは、「できた」「言えた」「周りが笑顔になった」「認めてもらった」という喜びを感じている状態。

仮説1 「人権が尊重される授業づくりの視点」を教科等の授業に位置付け、「みんなで分かる、みんなができる」授業づくりを行えば、互いのよさを認め合い、**自尊感情**が高まる児童が育つであろう。【授業づくり】

仮説2 人権を大切にしたい学校行事や児童会活動、地域との連携等の充実を図れば、自信を持って活動でき、**自尊感情**が高まる児童が育つであろう。【行事等の充実】



自尊感情とは、自分の思いを伝えたいという気持ち、周りから認められることで自分の長所や成長を知り、自分は大切な存在だと感じる心です。

仮説1 授業づくりの視点

- (1) 「人権教育を通じて育てたい資質・能力」と各教科等との関連整理
- (2) 授業の基盤づくり
- (3) 「人権が尊重される授業づくりの視点」を位置付けた小川小スタイルの授業
- (4) 対話を取り入れた協働学習の充実

仮説2 行事等の充実の視点

- (1) 「人権教育を通じて育てたい資質・能力」を位置付けた行事の計画と実施
- (2) 児童会活動の充実
- (3) 校内環境の整備
- (4) 地域等との連携

学級経営

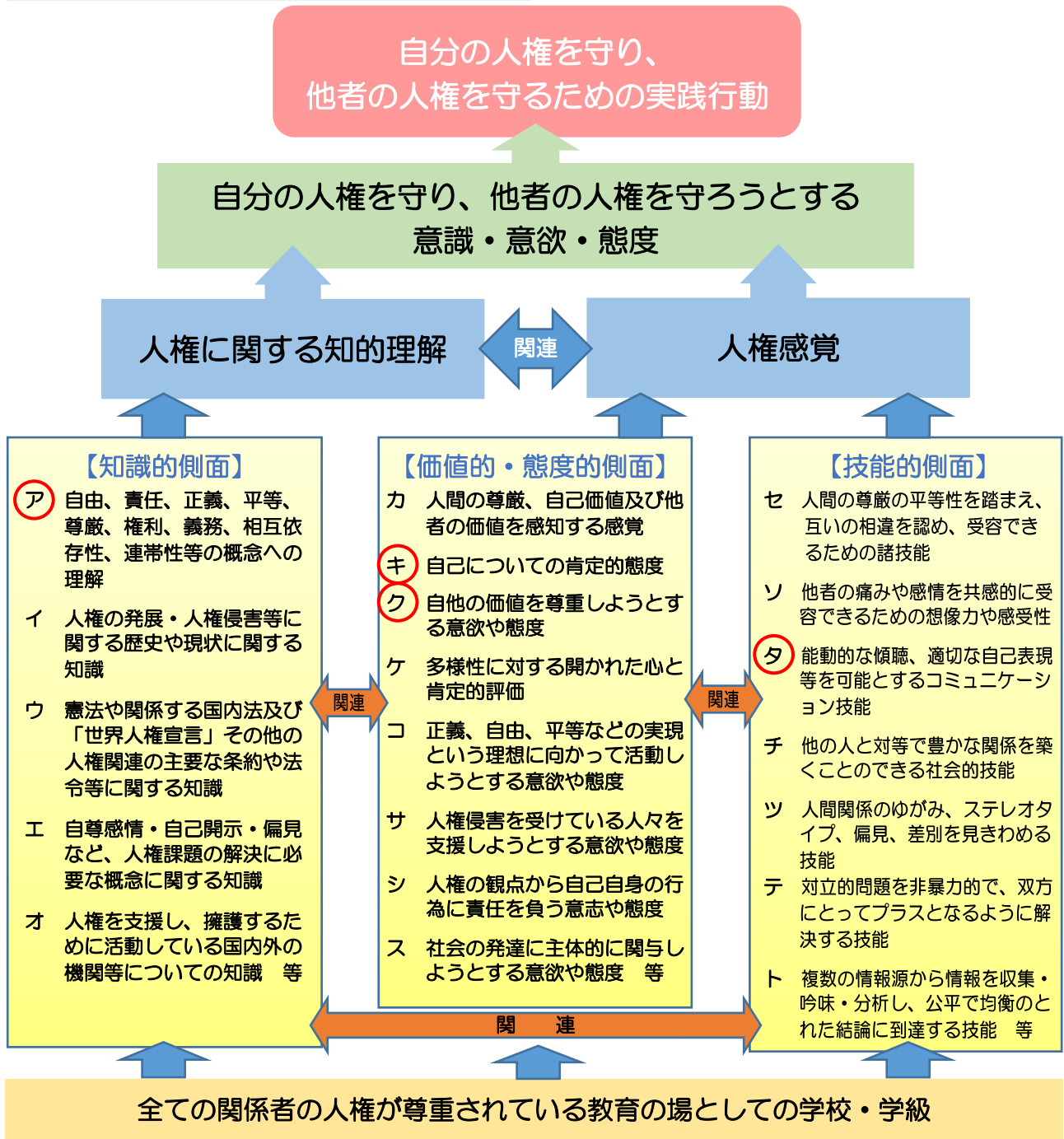
五者連携

家庭教育

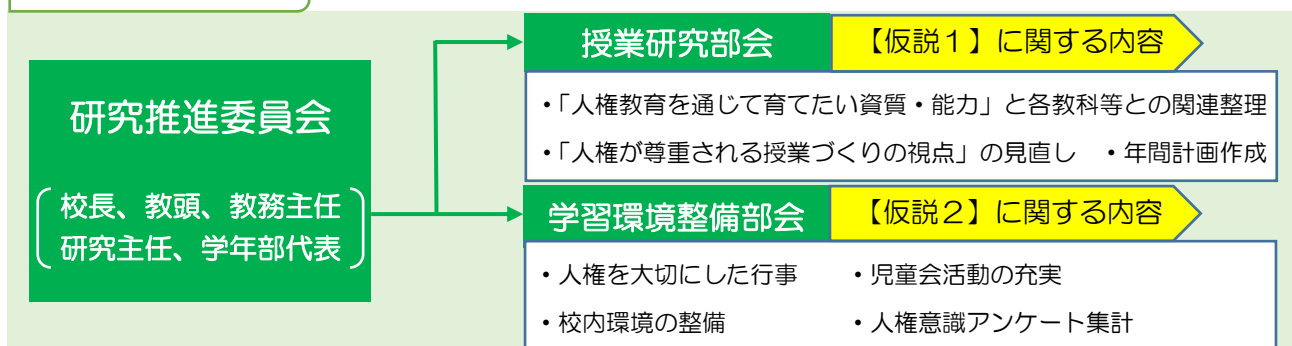
児童の実態 ・ 保護者の願い ・ 教師の願い

人権教育を通じて育てたい資質・能力

〈○は本校が重視する資質・能力〉



研究組織図



「人権教育を通じて育てたい資質・能力」を位置付けた授業づくり

1 人権教育年間指導計画

各教科や行事、諸活動等に「人権教育を通じて育てたい資質・能力」を位置付けた。

人権教育年間指導計画(第3学年)

月	人権が尊重される学習活動づくり		人権が尊重される人間関係づくり		人権が尊重される環境づくり
	教科等	道徳	学級活動	諸活動	
4	気持ちよく対話を続けよう 【国語】(技タ)	あこがれの人【善悪の判断、自律、自由と責任】(知ア)	学級のルールを決めよう (価・態ク)	朝ウオーキング・登校班・地区児童会 係活動(1, 6年)・委員会活	人権月間の取組(知ア)(価・ 心のきずなを深める月間 人権標語 校内掲示・校内環境整備の取
		助かった命【生命の尊さ】(知ア) (価・態ク)	前期のめあて (価・態キ)		
5	メモを取りながら話を聞こう 【国語】(技タ)	同じなから【公正、公平、社会正義】(知ア)	運動会を成功させよう (価・態キ、ク)		
	わたしのまち みんなのまち 【社会】(知ア)	さと子の落とし物【友情、信頼】 (価・態ク)			
6	調べて書こう、わたしのレポート 【国語】(技タ)	まいてるかいオルタ【個性の伸長】(価・態キ)	とびぼこ【人権学習】 (知ア)		
		おじいちゃんとの楽しみ【親切、思いやり】(価・態ク)			
7	書き手のくふうを考えよう 【国語】(価・態ク)				

2 人権が尊重される授業づくりの視点

視点1【自己存在感】、視点2【共感的人間関係】、視点3【自己選択・決定】の項目ごとに「具体的活動・留意点」を整理した。

人権が尊重される授業づくりの視点

宇城市立小川小学校

視点1 自己存在感を持たせる支援を工夫する	
ねらい	具体的活動・留意点
1-1 授業に参加しているという実感を持たせる。	①導入で、児童の言葉による前時の振り返りを行う。 ②授業の流れを明示し、見通しを持って授業に参加できるようにする。 ③本時の学習のまとめとして、めあてに対するまとめの言葉を児童から引き出しながらまとめを行う。 ④児童の興味・関心を把握し、学習意欲につなぎ、習熟の度合いに応じた学習課題を準備する。
1-2 自分が必要とされているという実感を持たせる。	①自由な発想や方法が認められ、自己選択ができる場を工夫する。 ②互いの発言を最後まで聴く習慣や、誤答を大切にすることを身に付けさせる。 ③個人の意見を持つ場を保障し、2人組や班、全体での話し合い活動を活性化して、お互いの考えや方法の良さに気付かせる。
1-3 教師が一人一人を大切にするという姿勢を示す。	①児童の発表をしっかりと聴き、認める。 ②児童の実態把握の上、個に応じた適切な学習支援を行う。 ③授業中の一人一人の学習をしっかりと見取り、認め、褒め、励ます。 (ノートや学習シートのチェック→○付け、シール、言葉かけ)

3 学習構想案

学習構想案に、「人権が尊重される授業づくりの視点」を明記した。

【視点1】 自己存在感	【視点2】 共感的人間関係	【視点3】 自己選択・決定
過程	時間	学習活動 (◆主な発問 ◇予想される児童の発言)
つかむ	7分	1 本時の問題をつかむ。 ◆じゃんけんぶろつくとりげえむをします。 ぶろつは なんこ ありますか。
めあて		◆先生は、何個取ったでしょう。 ◇10個より多い。 ◇しっかり見て数えないと何個あるか分からない。 ◇まとまりをつかって並べたらいいんじゃないかな。
		指導上の留意事項 (学習活動の目的・意図・内容・方法等)
		(「問い」を生み出す手立て等) 自己存在感1-1④ ○ばらばらに貼ったブロックをばつと提示することで、ばらばらでは何個が分りにくいことを全体で確かめ、ばつと見て分かるように並べることが課題であることを共有する。 (見方・考え方を働かせて課題解決に向かう方向付け) (課題解決に向けた見通しを持つ手立て) 自己存在感1-1② ○まとまりをつかって並べれば良いという視点で考えさせる。
		【めあて】 ぶろつが なんこあるか ばつとみてわかるように ならべよう。

4 授業実践

第1学年 国語科 おおきなかぶ

本時の学習

(1)目標

場面の様子や登場人物の行動について想像したことを音読に生かしながら、練習することができる。

(2)本時における人権教育を通じて育てたい資質・能力
能動的な傾聴、適切な自己表現等を可能とするコミュニケーション技能【技能的側面タ】



成果

本時まで、自分の担当する場面の音読の工夫や担当する登場人物のセリフの書き足しを行っている。

互いの音読の工夫や書き足したセリフを動作化しながら聞き合うことで、よいところを褒め合ったり、友達のよいところを自分の表現に生かししたりする姿が見られた。

みんなで協力して、ナレーターや登場人物のセリフを考えることができたので楽しかった。(単元末の振り返りより)

第2学年 特別の教科 道徳 お月さまとコロ

本時の学習

(1)ねらい

自分に素直になることが晴れ晴れした気持ちになることに気づき、のびのびと生活しようとする態度を育てる。

(2)本時における人権教育を通じて育てたい資質・能力
能動的な傾聴、適切な自己表現等を可能とするコミュニケーション技能【技能的側面タ】



成果

「心情円盤」を使用することで、考えを伝えることが苦手な児童も自分の考えを表現しやすくなり、理由を言いやすくなりました。

葛藤場面、様々な立場に立って考えることを通して、互いの気持ちを理解しようとする意見があった。

コロは、友達に悪いことをしてしまったから謝りたいけれど、違う言葉がでてきてなかなか謝れない気持ちだと思います。

第3学年 算数科 考える力をのばそう

本時の学習

(1)目標

線分図を用いて2つの量の重なりに着目して、全体の量の求め方を正しく図や式に表して考えることができる。

(2)本時における人権教育を通じて育てたい資質・能力
能動的な傾聴、適切な自己表現等を可能とするコミュニケーション技能【技能的側面タ】



成果

協働学習の場面で、自分の考えや分かったことを相手に伝える機会を設け、図や式を使って表現することや復唱して相手の意見を大切にする活動を行った。

「伝えることができた」という達成感や「聞いてくれた」という安心感が表れた振り返りがあった。

一緒に考えを出し合ったので、自分も説明できたし、ちがう解き方もわかったよ。話し合いをしてよかった。

第6学年 学級活動 なりたい自分になる ～6年生になって～

本時の学習

(1)目標

これからの学級や学校生活に希望や目標をもち、自分なりのめあてをもって学校生活を送ることができる。

(2)本時における人権教育を通じて育てたい資質・能力
自己についての肯定的態度【価値的・態度的側面キ】



成果

「今の自分」のよさや可能性を見だし、6年生としての「なりたい自分」を見定め、「今の自分」が取り組んでいくことを意思決定する機会を設定した。

今年度、さらに将来に向けての希望や目標を持つとともに今までの自分の頑張りを認める発言があった。

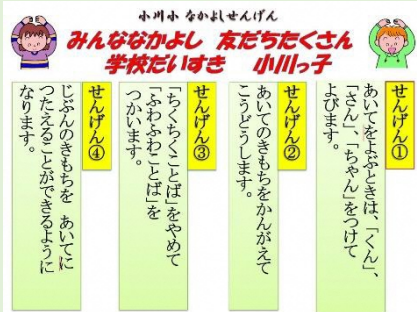
5年生までの委員会活動の経験を生かして、もっとリーダーシップを発揮していきたいな。

人権を大切にした学校行事等の充実

知識的側面ア

なかよし宣言

校内掲示



6月に企画委員会主催の全校集会で、「小川小4つのなかよし宣言」を確認した。「心のアンケート」の結果を基に、友達との関わりや学校での自分自身の気持ちについて振り返った。みんなが大切な仲間だということを学ぶ場とした。

児童自身が望む呼ばれ方を掲示することで、周囲に自分の思いを発信する場や友達づくりの場とした。

人権学習



各学年で重点目標（低学年：感性と言葉をみかく、中学年：いじめや差別を解決する態度を培う、高学年：人権問題に目を向け、差別をなくす）を設定し、体系的な学習により、個別的な人権課題に対する知識理解を深め、実践化につなげるようにした。7月の授業参観では、保護者への啓発の場として、外部講師を呼び人権教育講演会を行った。

価値的・態度的側面キ

朝の活動

集団宿泊教室



入学直後から、6年生が1年生の道具の片づけの仕方を伝えたり、朝のウォーキング活動と一緒に体慣らしをしたりしている。1年生にとって居心地のよい学級になるようにという思いから、6年生が1年生に関わりを持つことで、6年生は自分のよさや価値を知ることにつながった。

自分たちで考え行動する機会や協力して活動する体験ができた。自分の役割を果たすことが、友達のためになることを学ぶ機会となった。

人権を大切にした学校行事等の充実

価値的・態度的側面ク

代表委員会



各委員会が提案した議事について、質疑を行い全校に広げた。みんなのできるもの考えることを通し、異学年理解につながった。「ほめほめ大作戦」では、友達そして自分のよさを見つめ直した。

運動会



上学年が下学年に、構え方や体の動かし方等を教えることを通して、その子に合った教え方があることを学ぶ機会となった。

児童総会



「学校をよりよいものにするために、各委員会の役割・目標・活動内容について、それぞれのクラスから出た意見に答え、児童全体で学校のことを考えていこう」という場として実施した。自分とは異なる意見にも耳を傾け、考え、答えることが、人を大切にするにつながることを学んだ。

技能的側面夕

あいさつ運動



企画委員会を中心にあいさつ運動を実施している。相手の心を開き、互いを元気にすることを実感する場となっている。給食の時間には、上手に挨拶ができた児童の名前が呼ばれ、自信を持つ機会となっている。

歓迎遠足



近隣の山まで、6年生と1年生がペアとなり、歩いた。6年生は、1年生に安心感を持たせるように、話を笑顔で聞き、うなずき、簡単な言葉で話しかける等、コミュニケーションの方法を工夫することを学んだ。

心のきずなを深める集会



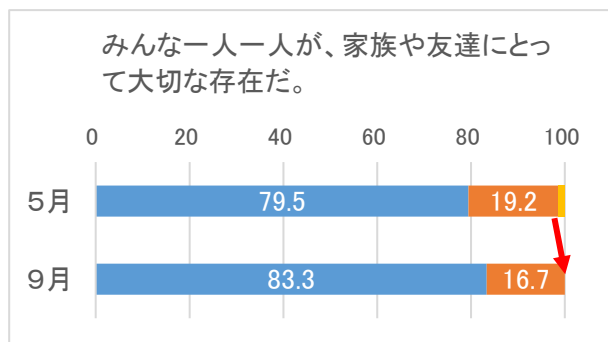
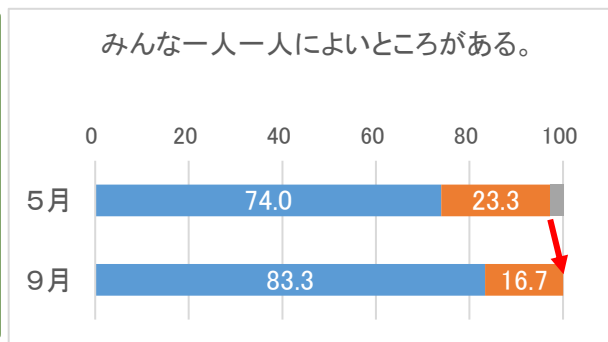
ふれあい活動の「自己紹介ゲーム」を通して、日頃関わり合いの少ない異学年の児童や先生たちと交流を深めた。相手を理解する態度を養うとともに、関わり合うことの楽しさを体感することができた。

研究の成果と課題

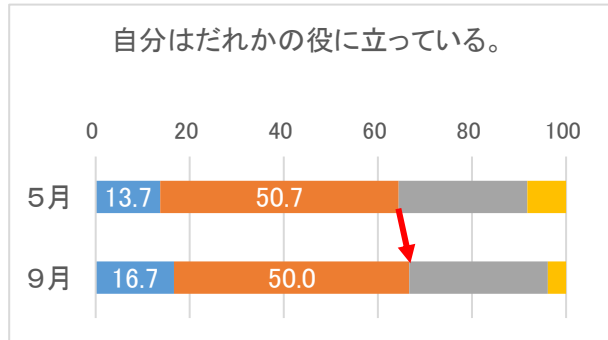
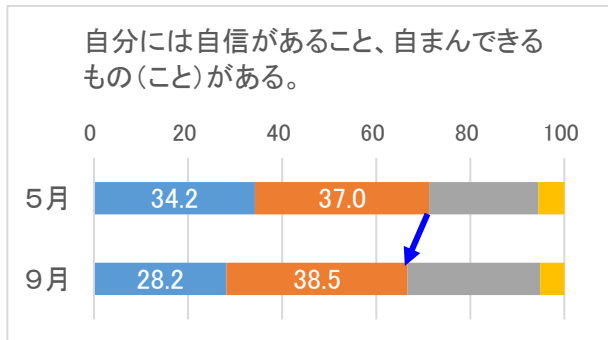
☆「人権教育アンケート（4年生～6年生）」の結果

■よくあてはまる ■だいたいあてはまる ■あまりあてはまらない ■あてはまらない

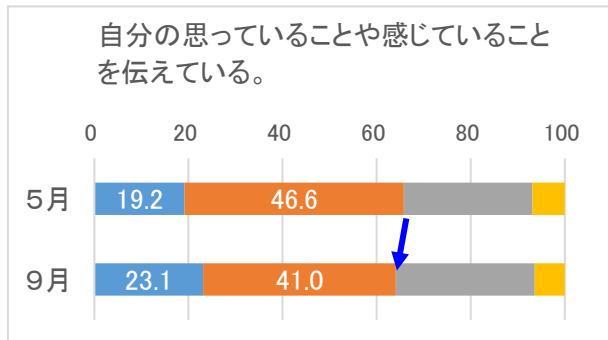
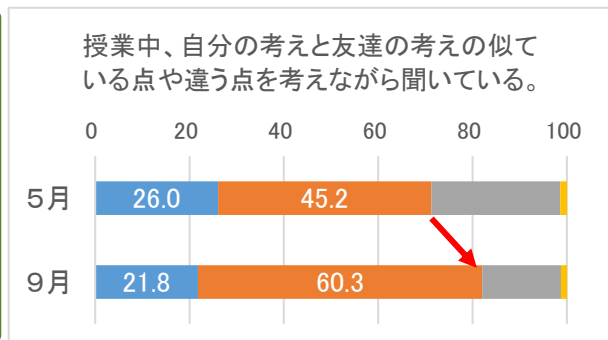
知識的側面ア



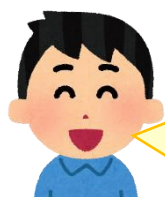
価値的・態度的側面キ・ク



技能的側面タ



☆児童の声



3年生：自分のいいところは「友達にやさしく、わかりやすく教えてあげること」らしい。「ほめほめ大作戦」で教えてくれてうれしかった。

6年生：自分の気持ちを伝えられるようになった。様々な場面で自分の気持ちを伝えることがあった。勇気を出して、自分の気持ちが楽になり、伝えてよかったと思った。



子供たちの輝く笑顔を求めて

これまでの取組で周囲の人のよさを感じる心、自分を含めた全員が大切な存在であると認識する心を十分に備えてきている。日常生活を見ても、友達の発言や行動に拍手や賞賛を送ったり困っている子に話しかけたりと、素直に友達のすばらしさを喜ぶ姿、周りにいる人を大切にする言動が増えてきている。また、職員も積極的に児童に話しかけ、職員間で話題に上がったことを基にほめたり、会話したりするようになってきた。

「一人一人にはよいところがある」と実感しているにもかかわらず、「自分に自信がある、自慢できることがある（自己有能感）」が伸びていない。また、自分の思いを表現することに苦手意識を持っている児童もあり、コミュニケーション技能にも課題が見られる。今後も研究の継続を図り、資質・能力が高まった具体的な児童像をイメージし、『ともに伸び合い、笑顔があふれる児童の育成』を目指した実践を積んでいきたい。